

平成 29 年度第 3 回地区推進会議 会議録

1. 開催日時：平成 29 年 12 月 5 日(火) 午後 5 時 30 分開始

2. 開催場所：市川市役所仮本庁舎 4 階第 1・2 委員会室

3. 出席者

各地区委員 : 37 名

社会福祉協議会：萩原常務理事、鶴ヶ谷事務局長、山崎事務局次長 ほか

地域支えあい課：杉山課長、飯島主幹 ほか

福祉政策課 : 若菜課長、白井主幹 ほか

4. 議事

(1) 地区別計画検討状況について

(2) 次期地域福祉計画策定について

(3) その他

5. 配布資料

会議次第

資料 1 平成 29 年度 地区別計画検討状況

資料 2 第 4 期市川市地域福祉計画【平成 30 年度～平成 35 年度】(素案)

資料 3 地区推進会議でのご意見と計画素案への反映について

席次表

曾谷カネヅカ地域交流室ご利用についてのお知らせのチラシ

区 分	内 容
福祉政策課 白井主幹	<p>皆様どうもこんばんは。本日はお忙しい中、また寒い中、地区推進会議にご出席をいただき、誠にありがとうございます。本日の進行を担当させていただきます福祉政策課の白井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。着座にて失礼させていただきます。本日もご出席いただいている委員の方ですが、お配りした席次表の通りとなりますのでご確認をお願いいたします。続きまして、本日出席しております市の事務局職員の紹介をさせていただきます。</p> <p>(事務局職員・社会福祉協議会・コミュニティワーカー紹介)</p> <p>そして社会福祉協議会各地区担当者にご出席いただいております。なお、地域活動について現場を見学したいということで、今回につきましても千葉商科大学和田教授及び学生の皆さんにもご出席をいただいておりますのでご報告申し上げます。よろしくお願いいたします。</p> <p>(資料確認)</p> <p>議事録を作成する都合上、今回につきましてもご発言いただく際は、お近くのハンドマイクをお使いいただきますよう、また地区およびお名前をお伝えいただいた上で ご発言いただきますようお願いいたします。またご発言が終わりましたらお手数ですがマイクのスイッチをお切りくださいますよう併せてお願いいたします。</p> <p>それでは議題の方に入らせていただきます。まず会議次第1「地区別計画検討状況について」地域支えあい課鈴木副主幹よりご説明をさせていただきます。</p>
地域支えあい課 鈴木副主幹	<p>(資料1 平成29年度地区別計画検討状況について説明)</p> <p>日頃から地域福祉の推進にご尽力いただき感謝申し上げます。今年度の振り返りといたしまして資料1を用いて行います。現状と課題についてはお送りした中に入れさせていただいておりますが本日は次年度以降の展望ということで<会議当日ご報告・ご意見をお願いします>という形をお願いをしております。第4期わかちあいプランの策定に向けまして各地区ではアンケートを行いまして地域の課題の集約について話されている時だと思っております。次年度以降の展望ということでアンケートの進捗状況や来年度に向けた取り組み等についてお話を頂けたらと思っております。市で実施しました昨年度のアンケートや地区推進会議、地域ケアシステム推進連絡会等で出された各地区の課題の中から例えば、活動の場の確保、担い手不足や地域ケアシステムのPR、地域での連携、地域住民同士の交流促進など各地区の共通課題になっているものもあります。この方向性ごとに現状や解決に向けたご意見を戴くのですがそれぞれの地区の中で集約できるものがあると考えています。例えば活動の場の確保、北部・中部・南部の方であります。「北部の方向性1. 活動の場の確保・充実」、「中部の方向性1. 活動の場の確保・充実」、それから「南部の方向性1. 身近な場所</p>

での活動の場の確保・充実」ということで、これは活動の場の確保ということで集約できると思います。行政の方では活動の場の確保ということで公の施設や、地域の貸店舗などを利用した賃貸契約をして拠点の確保をしております。その他、サロンや会議で公の施設を使う場合先受けと言って優先的な予約等の実施をしております。地区の方になりますが北部・中部・南部で同じような活動の場の確保ということになりますが各地区の中で現状や解決に向けたお話をさせていただける地区がございましたらお話を伺いたいと思いますがいかがでしょうか。挙手をお願いできればと思います。例えば国分地区は北国分1丁目の個人宅のサロンが開始になったということもありますし、曾谷地区では拠点やサロンPR用のチラシを作成して配布しているということもあるようですがいかがでしょうか。曾谷では例えば自宅を改装したサロンで食事を提供させていただいておりますし、信篤・二俣ですと買い物の行き帰りに立ち寄れるような場所になっているということもあります。いかがでしょうか、活動の場の確保ということで、南行徳の第2のほうでは、28年6月から地域ケア南行徳第2拠点が設置されていますが、そのことで何かお話をさせていただけることはありますか。

程塚委員

今ご紹介がありましたように南行徳の第2の拠点としてほっとスペースでの活動を去年から始めまして、今年の4月から自主運営になります。週7日活動しています。あまり先走らないように社協や地域支えあい課の方からも指導を頂きながら活動をしています。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございます。相談員の方も、大変多く来て頂くということで、内装も皆さんが入りやすいように壁際のところを見やすくしたりして、工夫をされているというように聞いております。

程塚委員

今は30名でローテーションを組んでやっています。二人体制で午前と午後に分かれていますのでシフトを組むのが大変です。また、普段お仕事をされていて土日に入ってくる方は月1回か2回という形になりますが、後につなげるためにも若手の60代の人達にシフトに入って頂いています。また、入り口を「見える化」して、なるべく色々なものを排除してスッキリさせて少しでも皆さんに入ってもらえるようにと今頑張っています。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございます。拠点までなかなかいらっしやらない方も多いのではないかということが、地区が広がったりするとあるのですが、そのようなことで何かこういう風にしていきたいというご意見はありますでしょうか。例えば行徳地区などですと、地元の自治会との協力によってサロンを開催しているというようなことも聞いておりますけれどもいかがでしょうか。

阿部委員

行徳が今どのようなことをやっているかということ、旧道と従来の行徳と2つにグループが分かれますので、今までのように拠点ばかりでやっていると来る人が決まってくるので、できれば旧道も自治会館を借りて順次

健康サロンをやったりカラオケサロンをやったりそういうグループ分けをしております。定期的が一番来られるのは歌声サロン、それと折紙などをやる手作業のサロン。これは大体平均35人くらいで、部屋が狭くて入れません。関係者は全部廊下にいます。カラオケは大体15人前後で少ないかと思えますけれど、大体3時間半で40曲くらい毎回やっています。健康サロンは今、病院と提携して各自治会が順番でやっていますけれど、病院の場合は60人前後というところですが。ただ自治会はどうしても会館を借りる関係があって各自治会が3か月に1回とか半年に1回、健康サロングループをやっていますので、そういう時は人が集まりづらいようです。平均的に1年間で歌声サロンが400人強、健康サロンが350~60、カラオケが200人くらいで推移しています。できればですが、空き店舗があれば、それを使って皆さんの憩いの場ができるかと、今考えています。地域ケアにもあるのですが地域ケアの場所も分かりづらいという人も多いので、買い物に行ったときに気楽に寄れるようなところがいいと思っています。ですが、地域にはお店に行く前後に空き部屋がありません。マンションはあるのですが一軒家の空き店舗がありません。各自治会の協力が無いと次のステップには行けないというのが今悩みの種です。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございます。自治会館を利用してサロンをやっている地区が結構あります。また、社務所等を活用されている地区も多いようです。場の確保というのはこれからも大きな課題の一つになっていくと思いますので、また活用の方法がございましたらお話を頂ければと思います。それでは次に移らせていただきます。「地域住民のつながり」ということで「北部の方向性2. 地域住民のつながりの強化と情報の共有化」それから「南部の方向性3. 地域のつながりネットワークの充実」というところで地域住民のつながりということでは方向性が出ていないかと考えます。地域住民のつながりということになりますと例えば高サポさんとかケアマネさんとも交流会をしている地区もありますし、先程の阿部委員の方からもありましたけれど、自治会さんと協力して事業をやっているところも多いようです。北部の方では民生委員さんや自治会さんと一緒に何かやっていたらいいということがあればお話しいただいて、また課題や来年度に向けてこうしていきたいということがございましたらお話しいただきたいと思いますがいかがでしょうか。

日光委員

曾谷では高サポやケアマネとの交流会ということで2度ほど交流会の方をやっていたらいいようなのですが、日光会長いかがでしょうか。

曾谷の社協としてはサロン活動として曾谷地区だけで独自のサロンまつりを開催しております。結構お客さんは来てくださっています。拠点が公民館の中にあるものですから公民館を使わせていただいてサロンまつりをやっています。高サポさんのほうもいろいろイベントをやって、それと連携しながらやっている部分もあります。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございます。曾谷地区のサロンまつりは2回目になりますけれどもサロンの横の連携に取り組んでいただいたところです。お食事を作るサロンもありますのでそういうところで振舞って頂いたりもしました。他のサロンがどんなことをやっているのかということを知らなかつたりすることもありますので、そういう面では地域住民の方も巻き込んだ活動ができていないのではないかと思います。南部の方になりますけれども、南行徳では学校や自治会とコラボした行事の開催ということを知っていますけれどもいかがでしょうか。

堀江委員

学校と地域ということで、まず、民生委員が主になって、小学校の5年生に福祉教育を行いました。授業の後で地域に子ども達を出して、地域の中でどんなことが不便なのか、福祉関係に関してどんなことが不便か、盲目の人・車椅子の人はどういうところが不便なのかということを考えてもらいました。その後、先だって第七中学校の全体の生徒を土曜日に集めまして、午前中はオープンスクールで授業を見たのですが、午後から地域の自治会のすべての会長さんが来てくださりまして、地域ごとに部屋を別々にして、その地域に住んでいる子供たちに自治会の話をしてもらって、自治会をもっと子供たちに知ってもらおうという取り組みをしました。私のところは150人くらい生徒がいて、そこで福祉の話をしました。私のところの地域は新しい人ばかりです。旧道に沿っているところは歴史が長いのですが私たちのところはだいたい4～50年住んでおられる方以降なのです。ですから地域とのつながりがあまり深くない。お祭り等に子供達が行くようなことはあるのですが、それ以外で地域に古くから、親の代から貢献しているという方が少ないので子供たちにもう少し植え付けなければいけないということで、話をしました。そういったことで地域と子どものつながりを作っていこう、これからだんだん自治会というものを分かってもらおう、民生委員というものを分かってもらおうというような取り組みを先だって行いました。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございました。地域ケアシステムの拠点だけではなくて地域住民を巻き込んだ行事をしていくということがどこの地区でも取り入れていただいているものと思います。次は活動内容の充実ということで「北部の方向性3. 活動内容の充実」「中部の方向性3. 活動内容の充実」ということで、これも同じような内容になりますので。先程曾谷で「てるぼサロンまつり」を開催したということですが、ほかに例えば国分ではグラウンドゴルフ大会、今回初めての取り組みとなります。雨で流れてしまったのですが、新たな取り組みということで少しずつ行事が増えていくものと思います。また大柏の方でも自治会とのコラボ企画ということでふれあいの集いを行っているのですけれども毎回大盛況で90人の定員がその日のうちに埋まってしまうというような大変人気のあるものです。淡路会長よろしいでしょうか。

活動内容の充実ということですが、こういうものは毎年同じような活動をやらざるを得ませんが、内容を少しずつ変えながら本質は変えないということで取り組んでいます。例えば、新しく史跡めぐりをするウォークラリーを去年初めてやったのですが、その時に一つだけミスをしてしまいました。車椅子の方が参加されたのです。全く想定外でした。その方は車椅子を使う前はウォーキングなどをやっていて、社協の活動だから行けるかと思って来られていて、途中まではついて来られたのですがやはり階段などは行けなくて、平謝りして帰っていただきました。これからはそういうことも考えて企画をしていかないといけないのではないかと反省をしました。

ウォークラリーの時に団体が歩いているとその団体はどうして歩いているのかと怪訝な目で見られたものですから、社協ののぼりを持って歩きました。そうすると、社協もこういうことをやっているのですねというふうに思ってもらえたと思うので、あののぼりを作っていただいて非常によかったなと思います。社協というのはいくつかの活動をしているのだと思ってもらえるようにするため、サロン活動の時は必ず入口のところにのぼりを置いたり、部屋の前にのぼりを置いたりして、PRをしていこうかと思っています。

毎年ふれあいの集いといって古今亭菊之丞さんをシリーズで呼んでいます。今年で3年目になるのですが、来られる方はまた来年違うお話を聞けるのではないかとということで、彼にはシリーズでお話をして下さいとお願いをしています。これは内容が変化させながら続けて行きます。

サロン活動はマンネリ化して来られる方も固定化し始めているのでそれ以外の方々にどうやってこの会場に来てもらうかということが最大の課題となっています。内容を色々変えていくのですがなかなか担い手がないものですから変えたいのですが変えづらい、変えるのには時間を要すると思います。従いまして今やっている活動そのものを継続しながら、内容の質を変えながらやっていければという感じです。継続しなければダメな事業ばかりです。

それに加えて、社会福祉協議会というものが地域にまだ浸透、認知されていないものですから、自治会長さんと民生委員さんと社協とで三位一体で情報交換をしながら広めていかなければなりません。それには拠点が必要です。大柏は拠点が、公民館の中に、地域ケアシステム大柏としてあるのですが、最近その地域ケアシステムというのがよくわからない、名前を変えてくれないかという話も出ています。関係者の皆さんと相談しながら30年度はやろうかと思っています。また、拠点の場所が狭いので、もっと広いところを提供して頂けると良いのですが。空き家を借りてもいいのですが家賃がかかるわけですからその費用もないかと思っています。まとまらない話でしたが、のぼりの活用は最高に良かったです。ありがとうございました。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございました。活動の内容の充実ということでサロンの数が増えていくのはいいのですが内容というところもあると思います。第一地区では男性が参加しやすいカラオケサロンをスタートされたと聞いていますけれども、お話をしていただけませんか。

平野委員

現在サロンとしては6カ所やっています。その中の一つが一番最近加わったものですが、市川八幡神社の社務所を利用して、そこに関連する自治会3つが、例えばカラオケの機器を借りる場合にその3自治会で分担するという形でやっております。これは自治会が絡むことによって社協の活動の支えになっているということです。私どもいろんな行事を行っており、古いものは16回目になっています。例えば夏休みのラジオ体操。これは市川小学校を使ってやっています。それからふれあい会食会と言ってこれは災害時の弱者で市に登録している方達を中心に呼んで、民生委員が主体になって、それに加え社協の福祉委員、12ある各自治会の会長が出るという形で行っており、これも16回目でございます。それから行事としてやっているのは男性料理教室。これはなかなか人数が集まりません。大体毎年20名前後というところですが、一つ少し変わったのを来年2月にやろうと思っているのはふれあい音楽会の第1回目をやりたいと思っています。これは地域に例えばコーラスをやっている、あるいはマンドリンのグループがある、ギターのグループがあるということで探してみたら非常に多くのグループがあるということなので、その人達を引き出して市川駅の南にあります高いビルの場所を借りて音楽会を開く。これが第1回目です。以後も続けてやりたいと思っています。もう1つあります。これは具体的には国府台自治会の会長の中村さん、根本自治会の私とかが国府台高校で、「開かれた学校委員会」というものに出ているのですが、これは毎年1回ミニ集会という形でいろいろなことをやっているのですがここ2年は地域の清掃ということでやっています。高校生の有志、大体運動部の生徒が多いのですが、今年は卓球のグループが集まってきて、先生も一緒についてきて、地域に住んでいるPTAの人達も参加して、大体国府台地区全員で3～40名、それから根本地区3～40名くらいが地域の清掃をしました。これは社協との関連は直接ありませんが高校生をボランティアの形で動かすということでは、かなり面白い企画だと思います。清掃は私の提案だったので少なくとも3年は続けようと考えております。学校との関連はもう少しみんなで考えてやっていくことが必要だと思います。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございました。地域の中で色々な人材がまだまだいらっやると思いますし、高校生などはボランティアということをやちゃんと理解しているので、そういう方を活用していただくということはいいことかと思えます。次に人材の確保ということで「中部の方向性の2.さらなる人材の確保・育成」、「南部の方向性2.担い手の確保・育成」というのがあります。これも同じ方向性ということであげられるかと思えます。真間の方

では変わったネーミングの「おせっかいおばさん・おじさん登録台帳」というものがありますけれどこれについてお話を聞かせて頂けますでしょうか。

小林委員

真間地区につきましては公共施設が全くないものですから当初活動については学校をお借りしていたのですが、なかなか学校だと人が来づらいなど色々な面がありました。その当時私の前の会長さんが、地域ケアシステムが発足するときに当たりまして、ここではまずいということである苦勞して、又、市とも折衝しましてたまたま近くに空き店舗があったということで、空き店舗をお借りしてそこを拠点としました。活動的にはいろいろな活動を行っているわけですが、ふれあい演芸会や、またこれは市川第一地区の平野さんのおかげだと思うのですがラジオ体操も実施しています。たまたま市川第一地区のラジオ体操をやっていた市川小学校が工事のために使えないということで真間小学校を使っただいて、その際に出席者を見ましたら真間地区の人たちが多かったため、地区の事業ということでラジオ体操の事業をさせていただいております。また、真間のある一自治会でスイカ割大会をやっていたのですが、それを何とかもって地域に広げられないかということで、今年度から、真間地区の自治会と地区社協とが共催してスイカ割をやったところ非常に好評でした。そのような中で、なかなか人材というか担い手が非常に少なくなって来ているというようなことがあります。真間地区の拠点「よってこ」というところで、非常に狭くてどうしようもないのですが、先程大柏さんの方でも言っておられたのですが熟知されていない、また入るのに少し遠慮がちということもありました。何とか熟知してもらおうということと、担い手の人達の確保という意味合いも含めまして、真間小学校とコラボという形で。ふれあい交流会ということで真間小の1年生の児童と昔遊びをして交流を図ったり、七夕飾りだったり、真間小の児童が描いた絵画を学校の方でも地域に展示したいということがあり、ちょうどうちの拠点の壁面が空いているものですから、そういったところに展示をして、若い人たち保護者を呼び込みながら地区社協の活動のPRもしているところです。年々相談者も来られるようになりましたが、まだまだほんの一部ということもありまして、そういった人たちが気楽に気軽に来られるような呼び込みもしようではないかということで「おせっかいおばさん・おじさん」の制度を設けて、地域住民や高齢者や障がいのある人達を、昔で言う向こう三軒両隣じゃないですが、おせっかいをして社協活動していこうというものです。真間地区の自治会や地区社協の相談員の人たちがご近所や自治会の回覧を通しておせっかいをしてくれるおばさんやおじさんを募るといった形の登録制度を設けさせていただきました。

地域支えあい課
鈴木副主幹

真間地区では「おせっかいおばさん・おじさん」の登録制度を始められたということですが、宮久保・下貝塚地区の方でも協力員制度というのをやっていると聞いております。その協力員制度というのは、色々な行事に

溝田委員	<p>参加していただいた方にお名前を頂いて地域の中で何かやっていただけないかというようなお話だったと思うのですが宮久保・下貝塚地区の方でこの協力員制度のことについてお話して頂けますでしょうか。</p> <p>只今お話がありました協力員についてですが、協力員の制度を作りまして今年で2年目になりますけれども、今年の9月27日に3回目の協力員の集いを開催いたしました。1回目は昨年で、スタートの時に会合を持って協力員の制度を立ち上げまして、その時に協力員メンバーで一度研修会をしようということで去年の春、研修会を実施いたしました。今年の9月27日に3回目を実施いたしました。グループ研修をして今後自分たちはどういこうかという具体性を持った形の会議をいたしました。年明け早々には第4回目の会合をもって具体性を持たせた協力員の推進という形で進める予定であります。現在のところ30名の協力員でございますが追々は会員を募集してもう少し拡大してみんなが社協の活動の中で何をいこうかということで検討を進めて参りたいと思っています。</p>
平野委員	<p>それに関連して少し質問・提案したいのですが、社協の本部ではボランティア登録を受け付けておられて、聞くところによると400名くらいの登録があるということを聞いているのですがこれの活用をもう少し考えていただけないかと思えます。それを、各地区へフィードバックして、こういう人がいるからこの人たちに当たりなさいと言ってもらえればかなり我々として助かるだろうと思えます。そういう知識は我々には無いからどうしようもないということで、これは改めて社協の本部の方で考えて頂きたい要望です。</p>
社会福祉協議会 大野	<p>新規の登録の方につきましてはご意見を頂いてから地域の方で協力頂けるか頂けないかということについて確認しております。現状登録されているボランティアさんにつきましては状況を見ながら、地域のボランティアグループさんに色々な機関誌を発行したりする際に情報提供をして、地域で活動できるようにしていければと考えています。</p>
淡路委員	<p>それを今までやっていなかったということですか。</p>
社会福祉協議会 大野	<p>やっていましたがさらに情報提供していくということです。</p>
平野委員	<p>それに少し関連しますが以前市役所で個人の得意科目、例えば英語や碁、将棋など得意科目を教えたりするという形のことをしていたと思うのですが、それがどうも社協の方に全部吸収されたようなことを聞いていたのですが、そうであるのかどうかという質問が1つと、それからもう随分前ですが私自身が登録し、何年間か英会話を教えた経験がありますけれども、そういったものとの関係はどうなっているのですか。いわゆる行政の方と社会福祉協会のボランティア担当はどういう形になっているのかをお聞きしたいと思います。</p>

地域支えあい課 鈴木副主幹	<p>行政の方でそれについて今お調べしないと答えができないものですから宿題として持ち帰ってよろしいでしょうか。では社協さんの方から、お願いします。</p>
社会福祉協議会 山口	<p>最初のご質問ですが、恐らく社会教育課の方で行っていた学びを支えるサポーターのことか、高齢者支援課の方で行っていた事業のことだと思います。2～3年前に事業が終わる際に、社会福祉協議会の方へボランティア登録というような形で相談が来るので対応をお願いします、というお話がありました。ですが、実際にはボランティアセンターにご相談された方は少なく、2名か3名ぐらいしかいらっしゃいませんでした。また私どもの方では福祉的なボランティアに対する相談の対応をすることになりますので、そういった趣旨を説明したところ、その2～3名の方も自分が思っている内容と社会福祉協議会ボランティアセンターの内容とは違うということで繋がらなかった経緯がございます。ただ先程来の質問にございました社会福祉協議会ボランティアセンターの方に登録されている方をいかに地域の方に広げていくかというところは、社会福祉協議会としても大きな課題と言いますか、取り組むべきことと考えております。大野所長の方からも話がありましたとおり、やってはいるのですが、なかなか上手く活用されていないというのが現状としてありますので、今一度ボランティアセンターの取り組みも含めて見直していきながら地域の方に反映させていけたらと思います。</p>
平野委員	<p>よろしくお願いします。</p>
地域支えあい課 鈴木副主幹	<p>ありがとうございました。次に、団体の連携ということで「中部の方向性4. 団体間の連携・情報の共有化」というところです。市川第二地区では七社めぐりを随分長くやって頂いていますが地域のパンフレットを作成されたということを知っています。信篤・二俣地区の方ではハザードマップを全世帯に配布したということや地域を巻き込んだ催しをしているということも聞いておりますけれどもいかがでしょうか。</p>
原木委員	<p>今ハザードマップの話が出ましたけれどこれはもう実際に作ったものですので、次年度以降の展望ということで話させていただきたいと思うのですがよろしいでしょうか。原木地区、信篤・二俣地区では外環道が来年高谷ジャンクションまでオープンになると思います。それから防衛省の宿舍が物流センターに変わる、それから特別養護老人ホームが100床できまして、もう1棟来年着工になると思います。そして、何と言っても一番大きなことは東横インが原木インターの横にできることです。「東横イン西船橋原木インター」という名称で、14階建てでシングル420部屋、ダブル40部屋、約500名収容です。先日、地区と色々話し合いをしましたが、地区に色々な面で協力してくださるという話をいただいています。例えば、女性の方が中心で勤務時間は24時間労働で特殊だと思いますが、従業員を優先して地元から採用します。それから緊急時にはAEDを使って</p>

結構です。また災害時、特にこの地区は海拔1メートル前後ですので津波・高潮を非常に皆さんが怖がっていますので、その時も避難場所として使って結構です。地元の小学4年生の宿泊体験もさせてあげます。それから、ロビーでコンサートも提供します。向こうからそういうお話をいただいております。その他にも、自治会への加入もお願いいたしましたが、これから先社協と連動しまして、社協の賛助会員に入ってもらったり、新しい事業を色々企画したりして、どんどんコミュニケーションをとってやっていきたいと思っております。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございました。次年度の展望ということでいろいろなお話をいただきました。東横インの地元からの優先採用、ロビーコンサート、それから4年生の宿泊体験など本当に素晴らしいことだと思います。それから「南部の方向性4. PR活動の充実」ということなのですがPR活動につきましても、本日配布させていただいておりますけれども、行政では平成26年12月に引き続きまして平成29年11月3日号に地域ケアシステムの特集面を作成しました。地区の皆様にはご協力頂いて、本当にありがとうございました。お手元にあると思っておりますので後で見つけたらと思っております。

原木委員

今日はいろいろなお話をいただきましたが、何かどうしても来年度の展望としてお伝えしたいということがもしございましたら挙手をお願いしたいと思いますがいかがでしょうか。はい、原木会長お願いいたします。一つだけお願いというか、相談したいのですが、事業の拡大は非常に良いことなのですが事業を拡大しますと経費がかかります。うちの地区も色々拡大したため、5年間の決算を見ますと残金は3割くらい減っています。あと3～4年経ちますと、おそらくお金が底をついてしまうと思っております。自治会からの会費もだいぶ減っています。増えている自治会もありますけれども、減っている自治会もあります。一括で払う自治会もありますので会費が減っていることは事実です。その一方で、支出の方がかなり増えていますので非常にこれからやりづらくなります。何かいい方策等あったら教えていただきたいのですが。

阿部委員

県からの補助金はもらっていますか。年間12万、5年間で60万県から出ます。

原木委員

県の補助金は使いました。洪水マップと電話帳で全部使いました。

日光委員

収入の方のお話ありがとうございました。収入をこれからどう確保していくかは皆さん悩んでおられることだと思うのですが、その他に支出の方で、我々が今まで取り組み続けてきたいろいろな事業について、果たしてはっきりとした目的があるのか、あるいは効果がどれほどのものかということを見直していかなければならないのではないかと考えています。例えば、曾谷地区ではタオルを毎年お配りしているわけですが、何のために配っているのかなどのお話がありました。今年度も配るわけですが、タオルを貰うほう

の方にアンケート調査をしてご意見を聞いてみようと思っています。その他、イベントについて、一部有料化ということも考えています。これから団塊の世代がいよいよ75歳以上を迎えるという時代になりますので、資金面が大きな問題として出てくるだろうと思います。今までは地区社協として物を配るということもしてきましたが、事業のあり方として、より実質的な活動という方向も考えなければいけないのではないかと考えています。これから徐々に皆と話し合い、考えながらやっていきたいと考えています。

地域支えあい課
鈴木副主幹

ありがとうございました。曾谷地区では敬老で75歳以上の方にタオルを渡しているということですが、タオルを渡していることについてのアンケートを取るということです。行事の有料化なども今後考えていかなければいけないのではないかとのご意見を頂きました。他に何か来年度以降の展望ということでお伝えしたいことがございますか。コミュニティワーカーさんの方から何かございませんか。来年度からは第4期地域福祉計画、第4期わかちあいプランが連動して、地域・社会福祉協議会・コミュニティワーカー・行政が各地区の課題に対してどのように取り組んだかということを経年振り返るための共通シート、振り返りシートというものを活用していきます。地域福祉推進体制に位置付けられた地区推進会議の中で取り組みの検証が行われていく予定となっています。つたない司会で申し訳ありませんがこれで終わりにさせていただきます。どうもありがとうございました。

平野委員

提案があるのですが5分間の休憩をお願いします。

福祉政策課
白井主幹

ご提案頂きましたので、5分間の休憩をさせていただきます。30分までとりあえず休憩といたします。

(休憩)

福祉政策課
白井主幹

では再開したいと思います。よろしく願いいたします。続きまして会議次第の2の方に移らせていただきます。次期地域福祉計画の策定について福祉政策課若菜より説明させていただきます。

(資料2 次期地域福祉計画策定について説明)

福祉政策課
若菜課長

福祉政策課
白井主幹

ただ今の説明につきまして何かご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。

和田教授

3つ質問させてください。

1つ目、振り返りシートこれがわかちあいプランと共通のフォーマットであることは素晴らしいことだと思います。大事なものはシートの情報が共有されるということと、必要な時にその記載をここにおられるような方々が見られるということが望ましいと思うのですが、振り返りシートへの記載は手書きになるのか、それとも情報ICTを使いながらデータとしてプールしてあって必要な時にそれが閲覧できるようになっているのかとい

うことが1つ目の質問です。

2つ目、地域活動の担い手養成研修のことですが、これは先ほどの委員の皆様方からの議論にもありましたが、担い手の問題というのはどこの地区でも問題になっており、そして研修を実施すると。問題は、研修修了者への地域活動の担い手としての登録の意向確認等々、先程の議論もここだと思ふのです。せつかく研修を修了した、ではどういう研修を修了した方が何人おられてといったことが把握できていないといけませんし、研修を受けたご本人にも修了証明書のようなものが渡されて、それを提示することによってしっかりとその方に合った、担い手としての活動場所につながれることが重要だと思います。研修を修了した方に修了証明書のようなものを渡す予定はあるのでしょうか。

3つ目は個人情報の適正な活用支援のところですが、最後のところに、適正に活用すると書いてありますが、個人情報を活用するときが一番難しいのはどこに保管しておくかということで、これは全国の自治体の中でも問題になっております。現時点で活用すると明文化されている以上どこかに保管するということがセットになっていないといけません。適正に保管されているということが明確になっていけば、ここにおられる方々も必要になった時にその保管場所から情報を共有するという流れになりますので、実際適正な保管場所が用意されているのかどうかこれが3つ目の質問です。

福祉政策課
正木主査

まず1点目についてお答えいたします。振り返りシートのことなのですが手書きのまま残しておくということは想定しておらず、データ化はすることになるかと思ふます。基本的にはこの地区推進会議の中でもその内容を共有したいと考えています。ただ、質問の意図にあったのかもしれませんが、WEBサイトで公開するかなどについては社会福祉協議会さんとの調整が必要なもので、現時点ではまだお答えできる状況ではありません。

地域支えあい課
長谷川主幹

研修修了者の方への証明書のことについてお答えさせていただきます。この研修は2日で1コースになっておりましてそれが終わりますと市の方から修了証明書というものをお出しする予定になっております。また、登録等につきまして、基本的に内容は訪問型サービスBを担っていただきたいということで設定させて頂いておりますので、そのような事業所を紹介させて頂いて登録をして頂くという方法を思っております。ただこの研修についてはサービスBだけではなくて、地域の担い手をやりたいという気持ちを持っていただける地域住民の方を増やすということが大きな目的となっておりますので、訪問型サービスBのためだけの研修とは考えておりません。

地域支えあい課
杉山課長

今説明させて頂いたことはまだ予定の段階で案として計画しているものであり、これから研修の形、証明書のことも含めて考えていきたいと思っております。はっきり決まりましたら皆様にはご説明したいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。

福祉政策課
正木主査

3点目の個人情報保護関係につきましてお答えします。全国的にも個人情報保護に関して過度に委縮してしまっているという状況があるという話も聞いている中で、神奈川県と神奈川県の社協の方が「地域福祉活動と個人情報」というトピックでわかりやすいリーフレットを作っていて、このようなものの作成を想定した事業に今のところはなっています。物理的に個人情報を保管する倉庫などといったことにつきましては現時点では想定しておりません。

福祉政策課
白井主幹
石崎委員

はい、石崎委員お願いいたします。

本日の最初の議題での会議のやり方ですが、私どもはたぶん聞かれると思って想定していたのですが、北部・中部・南部の圏域でそれぞれ地域・社協・コミュニティワーカー・行政が何をしたのか、今後どうするかが書かれていて、私たちは今後どうするかということについて発言するべきだったと思います。今後3圏域という基幹福祉圏域がなくなって14地区になるという4期計画ですので、それを政策別・課題別にお聞きになって、それに対してどのように各地区がやってきたかということをお話しさせたかったのだと思うのですが、それでしたら資料1はもう少し様式を考えてほしかったと思います。私どもにとっては、同じような共通した課題に対して各地区がどのようにやってらっしゃるかということとはとても知りたい内容です。それを一覧表にさせていただいて、それをもとに話をさせていただいたらもう少しお互いに共通認識ができたと思います。あちこちめぐり直して非常に見にくかったというのが一つの感想です。

もう一つは、3期計画もそうでしたが「これまでの取組みの成果と課題」という章立てがあり、その中に「地区別計画の進捗状況」というのが今回もあるのですが空欄になっています。これまで行政は私どもの活動に対してどのようなことをやってきたのか、その成果はどうで、課題はまだどこに残されているのかを3期計画ではきちんと明確にしていますが、そこがまだはっきりしていません。地区別計画の進捗状況の部分は、地区別にまとめてくださるのか、それとも先程お話があったように課題別に各地区がどのように対応したかということとをまとめて進捗状況にするのかお聞きしたいと思います。

それから、振り返りシートについてですが、私の推測ですが、地区別計画の資料1のような形はもうなくなって、振り返りシートに全部集約していこうというお考えなのかと思っています。そうすると、振り返りシートで「地区別計画テーマ」が4つありますが、先ほどお話しいただいたこととずれてくるかと思っています。4つのテーマも必要なことではありますが、課題として上がっていて鈴木さんが色々と聞き取っていただいた内容とずれてくるかと思っています。その辺はどのようにお考えになるのか、振り返りシートを地区別計画に変えるというように理解していいのですか。

それから、資料3の一番下のところですが、今まで皆さんのご発言の中

で、例えば、場が足りない、狭くて活動しきれない、新しいところが欲しい、どこか施設を空けてほしい、又は空き店舗にお金を出して欲しいというのがいくつか出ていました。それが実際行政の課題です。それに対してどう対応していくかは今度の4期計画にきちんと方針を出して欲しいと思います。それが今日の会議の目的だと思います。課題が出て、何となく行政が努力するというようなことが書かれていますが、こういった切羽詰まった課題に対して行政はとことん応援をしますというところが欲しいです。それから、研修についても、事業者を育成する研修にどうして私たちが入っているのかと、一般の人の地域の担い手を育成する研修とは少し異なるのではないかと。そうすると訪問型サービスBだけの事業者向けの研修だけで終わらせてもらっては困ると思います。地域活動応援制度の創設については、前はマッチングという少し訳の分からない言葉でしたが少しはわかりやすくなりました。これは例えば今日資料の配布のあった「曾谷カネヅカ地域交流室」などこういうことがあった場合には地域に連絡しますということですか。先程の信篤・二俣地区の東横インのような情報は地域の方が早くわかります。私どもの周りにも新しく認知症カフェがいくつもできたりしているという情報は私どもの方が早い場合もあります。その辺りは応援制度創設というだけでなく、コミュニティワーカー、社協職員、地域支えあい課職員が、いち早く、いろいろな情報を地域に届けて貰いたい。これ一つだけでは少し不安です。個人情報についてもリーフレットという具体的な話が出てきて、これはありがたいのですが、リーフレットを配っただけで終わりにするのではなく、研修の機会を設けて具体的な事例を挙げながら私たちに説明をして欲しいです。

「地区別計画の進捗状況」という新しい計画の白紙になっている部分はどのように書かれる予定ですか。

福祉政策課
正木主査

まず計画書の素案にある「地区別計画の進捗状況」というところは、第3期計画の地区別計画の進捗状況を記載する欄でございますので、基本的には今日お示しをした資料1から若干様式の変更をした上で載せることを考えています。来年度以降の地区推進会議においてこの振り返りシートだけで終わりなのかということにつきましては、それだけで2回・3回ということは考えておらず、それぞれの地域課題というテーマ別に絞った形で話し合いを持つことも想定しているところです。

地域活動応援制度の創設のことにつきましては石崎委員がおっしゃられました通り今回お配りしている曾谷カネヅカケアハウスのような形のものを主に想定しております。これは向こう側から情報提供してくださったわけですが、そのような事業者を募集しますという形で広く事業者に周知をして積極的な社会福祉法人や民間企業の参加を呼び掛けるものになります。

石崎委員	<p>今期は3圏域ごとに分かれていたのだから、地区別計画は前回と同じ北部・中部・南部ごとにどこまで進んで何が課題かということをもとめるといことですね。ということは、議題1の会議の進め方が何か変だったといことですね。それぞれ圏域ごとに話をさせた方がよかったですと思います。</p> <p>地域活動応援制度の創設ですが、私たちは紙をもらうだけではなくて、そことどんなふうに連携したらいいか、活動のフォローになるのではないかといこと、そういうところまで応援をしてほしいです。コミュニティワーカーも社協の職員もそうですが、こういう情報がありましたと紙を渡して終わりではなくて私たちはそういった施設と連携してどういうことができるのか一緒に考えてほしいです。そこまで入ったような制度であってほしいと考えています。担い手養成講座の方は一般向けの研修は考えておられないのですね。</p>
福祉政策課 若菜課長	<p>今のご意見を踏まえながらただ情報提供だけでなく、そういった場所の提供をしていただけたところを有効に活用していただくというのは当然ながら重要なことだと思いますので、橋渡しができればと考えています。</p>
平野委員	<p>ちょっと話題が変わるのですが、この素案を通読いたしまして一つ物足りないと思ったのは保育所、保育士、それから社協が今やっている学童保育、これとの関連をどういう風に行行政としては捉えているのか。例えば保育士は資格ですから当然行政としては市川に住んでいる保育士については記録があると理解していますがそれでよろしいのでしょうか。それから学童保育についてはどんどん拡大して増えています。それと保育園の待機児童がいるのかどうか、保育士が足りているのかどうかこの辺はどうなっているのでしょうか。</p>
福祉政策課 正木主査	<p>保育所、保育士と放課後保育クラブのことかと思いますが実は福祉に関する計画というのは、この地域福祉計画だけではなくて、地域福祉計画と言うのは高齢福祉や子どもの福祉や障害者の福祉といった分野を横串でさすような計画なのですが、子どもについては子ども・子育て支援事業計画という、より具体的に定めている計画がありまして、それをもとに子ども政策部の方で危機感を感じながら取り組んでいます。保育所をどれくらいの定員を整備するか、保育士を確保するためにどういった具体的な施策を行うかといことは子ども・子育て支援事業計画の方の管轄で行っているものになります。</p>
平野委員	<p>地域福祉計画の中には含めないと、ちょっと言及しているところがあるのですが。社協がやっている学童保育なんてすばらしい企画です。そういったものと実際に保育園を作って保育士を雇うのはほかの担当課があるからそれでいいという形では済まされないとと思います。その辺り若菜課長から意見を聞かせてください。</p>
福祉政策課 若菜課長	<p>おっしゃる通りで、高齢者問題だけでなく、子ども分野でも、保育士不足、保育園の待機児童問題、学童など子育ての部分についてクローズアップされているところがあり、そういったところは避けて通れないところに</p>

なっております。そういったところにつきましては正木が申しあげましたように子ども・子育て支援事業計画の中で詳細な部分は網羅させて頂いております。一部今回の地域福祉計画の中でも引っかけるところがありますが、地域福祉計画は、高齢者分野の計画、障害者分野の計画などを全体的に、横断的に横串を入れるという感覚の計画になっておりますので細かな部分までは網羅しないような位置づけで計画を策定させて頂いております。詳細については申し訳ございません、各事業計画の方をご覧になっていただくという形になります。そうしませんと、かなり分厚いものになってしまいますので、分けさせて頂いております。

原木委員

資料3の振り返りシートの件で、1年間でどのような成果があったかということを書く形になっていますが、その成果を見て次年度はどういうことをやらなければいけないとか、これが足りないからこれをやろうとか、これができているからもっとやろうとか、そういうことも書いていくべきだと思います。どういう捉え方がいいのかわかりませんが See・Think・Plan・Do という回し方が大事ではないかと思うのですが、どのようにお考えでしょうか。

福祉政策課

ごもっともな指摘だと思いますが、即答できませんので、頂いたご意見を踏まえて社会福祉協議会さんと検討したいと思います。

正木主査

原木委員

情報の共有化も必要ですし、こういうことはできていたということ振り返ったら、次年度またこういうことをやりましょうということに気がしていきながらやっていくのが当たり前だと思います。

福祉政策課

白井主幹

石崎委員

ありがとうございます。他にもご意見がありましたらお願いをいたします。

先程私がうかがった、振り返りシートのテーマが、先程鈴木さんがおっしゃった情報の共有や活動の場などの様々なテーマと少しずれていることについては、どうなのでしょう。社協さんが考えたから社協サイドのテーマになっています。だから振り返りシートを利用したいというのであれば、先程鈴木さんがあげられたようなテーマをあげて毎年それを振り返っていくというようにしないといけないと思います。この振り返りシートは福祉政策課が社協と協力のもとで作るのですよね。お答えください。

福祉政策課

若菜課長

振り返りシートは、福祉政策課が作るのではなく、社会福祉協議会さん、地域の皆さんが書き込まれたものを共有して、みんなで一緒に考えるというように考えております。うちが主導で作るというわけではございません。

石崎委員

まとめるのは誰ですか。

福祉政策課

若菜課長

まとめるのも社会福祉協議会さんと一緒にまとめていく形になると思います。決して手を引くわけではないですし、一緒にやらせていただくことになります。

石崎委員

テーマが違うと思います。

福祉政策課
若菜課長

今のテーマのずれというところなのですが、共通のものとしては、テーマ1からテーマ3まであります。地域によって全くそこに該当しないものについては、テーマ4「その他」という中で網羅していければいいのかと思います。

石崎委員

計画書素案の64ページの第5章「施策の展開」に基本目標が1から5まであって、施策の方向は19挙がっています。それに従って各事業がぶら下がっています。その中に、先ほど鈴木さんがあげてくださった活動の充実や担い手の人材育成、活動の場などが書かれています。それが私たちの共通の課題であって悩み多きところです。これに対して市川市はどのようにフォローしていくのか、我々は自分のところでしっかり考えますし、社協は社協で考えるのですが、私たちが今述べたようなことに対して、解決のための施策を市川市が打って出ないと、ここで話して愚痴をこぼして終わりということになりかねないのではないですか。

福祉政策課
正木主査

計画書素案の64ページのところでは施策の方向を掲げていて、その中で、現時点で市の方でこういう事業を市の事業として進めていこうというのがその後の方で事業として書いてあります。その一部を資料3のところにも、修正前・修正後として記載しています。これにつきましては毎年度その事業に対してどう取り組んだかということ必ず報告をする形になります。これはオープンにWEBサイトでも公表いたします。それとは別にこの振り返りシートの中でも、先程テーマというお話がありましたが、その隣の「キーワード」という欄を見ると、先ほど話のあった課題と近いイメージの言葉が書いてあります。地域の担い手の確保・育成や活動の場の確保等。ですから、そういう課題に対して行政がどう支援したのかということは、そのキーワードに対応する「行政の取り組み」の欄に毎年度振り返って記載をしていく、そして振り返るという形になると思います。

石崎委員

私たちが現場でやっていることがきちんと行政の施策に反映されるということがこの会議の一番重要なことだと思うのです。言わばなしで終わらないためには、今まで出たようなこうして欲しいああして欲しい、私たちはそれなりに努力しているけれどここが足りないあそこが足りないということを地域包括ケアシステム推進委員会で話をもっていただきますよね。それが図柄に書いてあるのに地区推進会議で出たことが何となくうやむやになってしまって、行政としては施策の中できちんとやりましたというだけでは私たちがここに時間をかけて来た甲斐がないです。意見をきちんと反映してフィードバックして下さるということこそ、一番市川市が胸を張っていただきたいところなので、そこについてはお答えいただきたいです。

福祉政策課
若菜課長

今お話しして頂いたように、うやむやにすることなく、フィードバックをしていきたいと思います。これまでそういったことがおろそかであったということは第1回の冒頭でお話をさせて頂いたと思います。そういったことが二度とないように、頂いた意見を揉みながら、みんなで考えながら

やっていきたいと思います。ただし、先ほど活動場所などの話もございましたが、皆さんの要望に全部が全部応えられるか対応できるかというところ、そうならない部分もあろうかと思っています。しかし皆さんと一緒に考えながらそれがもしできないのであれば他に何かいい方策はないのかということは我々行政で考えていかなければならないだろうと思っています。そういったことを今後重視していければと考えておりますのでご理解いただければと思います。

淡路委員

はい了解しました。それぞれの捉え方はそれぞれありますから、それはそれでいいと思います。

福祉政策課
白井主幹
原木委員

時間もかなりおしてはいるのですがほかに何かありましたらお願いします。

確認させて頂きたいのですが、今皆さんからいろいろな意見が出ましたが、おそらく議事録をとっていると思いますので、次回会議の際に、こういうことについてはこうなりましたという結果を、簡潔でいいですから報告して頂けると良いと思います。これは絶対お願いします。

福祉政策課
白井主幹

それでは終了時間に近づいておりますので、よろしいでしょうか。では議題2の方これで終了させていただきます。ありがとうございました。続きまして議題3「その他」ですけれども一点ご説明させていただきます。もうお話に出ています、本日配布したチラシの件ですが、簡単に説明させていただきます。先日、曾谷2丁目にある曾谷カネヅカケアハウスを運営する法人から情報提供いただいたのでチラシをお配りさせて頂いています。こちらは地域交流の場としてカラオケ機器等のある部屋を無料で地域活動のために貸して下さるということです。基本的には毎週利用という継続的なものというよりは単発の利用を想定されているということですが、もしご利用の希望などありましたらこちらに記載されておりますご担当者のほうにご連絡を直接して頂ければと思っています。これが先程来話に出てきております地域活動応援制度の先駆けで、こうしたものが増えていけばということで、市川市としてもその辺を繋いでいければと思っています。このようなイメージだということで、まずはこちらをご覧になっていただければと思います。よろしくお願いします。議題3についてはこれでご説明終了とさせていただきます。最後に福祉政策課長若菜より一言ご挨拶をさせていただきます。

福祉政策課
若菜課長

今日も色々と皆様から本当に貴重なご意見を頂戴いたしました。冒頭、3回目という話をさせていただきましたが、今年度の地区推進会議は、これで終了とさせていただきます。本当に皆様には貴重なご意見、また貴重なお時間を頂きまして本当にありがとうございます。計画ができてから、これからが本当のスタートだと考えております。皆様方のお力添えがなければこの計画は絵に描いた餅になってしまいます。そうしたくはありませんので、是非ご協力を頂きたく、よろしく願いいたします。本当にこの1年間ご協力の程ありがとうございました。

福祉政策課
白井主幹

では閉会の前に事務局より事務連絡をさせていただきます。一つは来年度の地区推進会議についてです。今年度は先ほども話がありましたように今回で最後となります。貴重なご意見をいただきまして、ありがとうございました。来年度の地区推進会議についてですが、まだ正式決定ではございませんが、各地区社協で2名ずつの選出という形をお願いをする予定となっております。また時期が近くなりましたら正式なお願いをさせていただきますのでご了承いただければと思います。よろしく願いいたします。駐車券をお持ちの方がいらっしゃいましたらお声がけ頂ければと思います。以上です。皆さんお疲れさまでした。ありがとうございました。